

講義コード	4A006011
講義名	アロマセラピー
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

百合 邦子 [AEAJ アロマセラピーインストラクター]

目的

アロマセラピーで用いる精油は、私達の身近にあり、誰でも簡単に入手し使用できる「雑貨」である。しかしその種類や活用方法は広く、自己の心身ケアのみならず、昨今では統合医療としてメディカル面での活用が注目されている。

本講義では、このアロマセラピーの基礎知識と可能性について修得する。

到達目標

アロマセラピーの基礎知識と現在行われている研究を学修することにより、アロマセラピーを的確に用いることができるようになる。また、（社）日本アロマ環境協会アロマセラピー検定¹級合格可能レベルの知識修得を目標とする。

授業計画表

授業計画

- 1.アロマセラピーの楽しみ方
- 2.精油①
- 3.精油②
- 4.精油③
- 5.アロマセラピーのしくみ
- 6.エッセンシャルオイルの基礎知識
- 7.アロマセラピーの歴史 ①
- 8.アロマセラピーの歴史 ②
- 9.アロマセラピーの基材
- 10.アロマセラピーと健康的なライフスタイル
- 11.アロマセラピーに関する法律と研究
- 12.アロマセラピーと環境
- 13.まとめ ①
- 14.まとめ ②
- 15.まとめ ③

成績の評価

定期試験⁹⁰%、 課題（レポート等）¹⁰%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

各項目毎に随時資料を配布する。

参考資料

1. 「アロマセラピー検定テキスト 1級・2級」（日本アロマ環境協会）
2. 「日本アロマセラピー学会エビデンス集ー過去10年間（2002～2011年）の歩み・論文集ー」（日本アロマセラピー学会）
3. 「日本アロマセラピー学会エビデンス集ー最新5年間（2012～2016年）の歩み・論文集ー」（日本アロマセラピー学会）

オフィスアワー

月曜日12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室yuri@kansai.ac.jp

講義コード	4A007011
講義名	インターンシップ実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-2617
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二・王 財源・中吉 隆之・鍋田 理恵・山崎 寿也・北川 洋志

目的

本実習は、「鍼灸治療所実習Ⅰ」とともに、学内で学修した知識と技術を実際の臨床の場で再確認するための重要な科目である。実際の臨床では、教科書で学んだとおりの病態を示すとは必ずしも限らないこと、また同じ病名であっても患者の訴えは多岐にわたっていることも多い。本実習では、本学附属鍼灸治療所とは異なる臨地実習施設において、上記の状況に対しどのように対応しているかを学ぶ。

到達目標

1. 施設指導者の指示に従って適切に行動ができる。
2. 患者とうまくコミュニケーションをとることができる（問診を含む）。
3. 施設指導者の方針に従って治療を補助できる。

授業計画表

授業計画

予め本実習のための必要な事項（接遇、患者情報保護など）についてガイダンスを行った後、本学科が認定した臨地実習施設に1-2名で1週間の実習を行う。具体的な実習内容としては、治療準備、患者案内、問診、治療補助、治療終了後の片付けなどである。

成績の評価

臨地実習施設指導者による総合評価80%と本学担当教員によるデイリーレポートの内容評価20%とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

臨地実習施設指導者の総評、ならびに担当教員の評価について開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

「鍼灸診察法Ⅰ」で配布した資料（医療面接、身体診察など）を参考資料とする。

オフィスアワー

水曜日12:00~13:00（坂口）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp（坂口）

講義コード	4A028011
講義名	トレーナー総合実習
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-2710
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

増田 研一〔医師、日本スポーツ協会公認スポーツドクター〕
 内田 靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 中尾 哲也〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 吉田 隆紀〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーに必要な技術・能力習得を目的とする総合的な実習を行う。

到達目標

スポーツ現場における知識／技術などに応用を利かせ、身につける。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックトレーナーとしての行動
2. 機能解剖学の理解から運動指導への応用
3. 外傷／障害に対する理解と処置
4. 内科疾患や環境への対応
5. 対象者への検査／測定と評価
6. コンディショニング
7. アスレティックリハビリテーションの立案と実施
8. 救急処置
9. トレーニングスケジュールと栄養指導、サプリメントの理解
10. 地域スポーツ振興への企画立案と実施

成績の評価

実習態度や取り組み40%、デイリーレポート40%、発表・プレゼンテーション20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマについて0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

遅刻や欠席は原則的に認められない。特に現場実習発表会は成績の大部分を代替している部分でもあるので欠席は大幅な減点とする。やむを得ない欠席・遅刻については事前に相談すること。

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目であるため、受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られない。

テキスト

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレティックトレーナー専門テキスト①～⑨（日本スポーツ協会）

参考資料

適宜、指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00（内田）

月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00（吉田）

月～金曜日 12:00-13:00（中尾）

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30（寺岡）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp（内田）

4号館7階D719研究室、nakao@kansai.ac.jp（中尾）

4号館7階D719研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp（吉田）

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp（寺岡）

講義コード	4A075011
講義名	課題研究（坂口）
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-5004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二・近藤 哲哉・谷 万喜子・山本 博司・伊藤 俊治・木村 研一・戸村 多郎

目的

本科目では、研究課題を遂行するための基礎を学び、大学院での研究などに繋げることを目的とする。

到達目標

研究課題を遂行し、その成果をレポートや学会発表、論文作成に繋げる。

授業計画表

授業計画

以下の分野に配置した教員より提示された課題から1つを選択し、それに沿って研究の基礎を学ぶ。

指導教員：坂口俊二	領域：鍼灸臨床学
指導教員：近藤哲哉	領域：心身医学
指導教員：山本博司	領域：鍼灸臨床学・鍼灸疫学
指導教員：伊藤俊治	領域：分子病理学・細胞生物学
指導教員：木村研一	領域：鍼灸基礎学
指導教員：戸村多郎	領域：保健予防医学・医学教育学
指導教員：谷万喜子	領域：鍼灸臨床学

成績の評価

担当教員毎に異なる。事前にポータルサイトにアップした課題研究の概要に準じる。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

履修前面談時に開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習が必要である。

テキスト

担当教員より指示がある。

参考資料

担当教員より指示がある。

オフィスアワー

水曜日12：00～13：00（坂口）

E-mail

研究室・授業用

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp (坂口)

講義コード	4A075011
講義名	課題研究
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-5004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二・近藤 哲哉・谷 万喜子・山本 博司・伊藤 俊治・木村 研一・戸村 多郎

目的

本科目では、研究課題を遂行するための基礎を学び、大学院での研究などに繋げることを目的とする。

到達目標

研究課題を遂行し、その成果をレポートや学会発表、論文作成に繋げる。

授業計画表

授業計画

以下の分野に配置した教員より提示された課題から1つを選択し、それに沿って研究の基礎を学ぶ。

指導教員：坂口俊二	領域：鍼灸臨床学
指導教員：近藤哲哉	領域：心身医学
指導教員：山本博司	領域：鍼灸臨床学・鍼灸疫学
指導教員：伊藤俊治	領域：分子病理学・細胞生物学
指導教員：木村研一	領域：鍼灸基礎学
指導教員：戸村多郎	領域：保健予防医学・医学教育学
指導教員：谷万喜子	領域：鍼灸臨床学

成績の評価

担当教員毎に異なる。事前にポータルサイトにアップした課題研究の概要に準じる。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

履修前面談時に開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習が必要である。

テキスト

担当教員より指示がある。

参考資料

担当教員より指示がある。

オフィスアワー

水曜日12：00～13：00（坂口）

E-mail

研究室・授業用

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp (坂口)

講義コード	4A075012
講義名	課題研究（伊藤）
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-5004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし
教員	坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二・近藤 哲哉・谷 万喜子・山本 博司・伊藤 俊治・木村 研一・戸村 多郎

目的

本科目では、研究課題を遂行するための基礎を学び、大学院での研究などに繋げることを目的とする。

到達目標

研究課題を遂行し、その成果をレポートや学会発表、論文作成に繋げる。

授業計画表

授業計画

以下の分野に配置した教員より提示された課題から1つを選択し、それに沿って研究の基礎を学ぶ。

指導教員：坂口俊二	領域：鍼灸臨床学
指導教員：近藤哲哉	領域：心身医学
指導教員：山本博司	領域：鍼灸臨床学・鍼灸疫学
指導教員：伊藤俊治	領域：分子病理学・細胞生物学
指導教員：木村研一	領域：鍼灸基礎学
指導教員：戸村多郎	領域：保健予防医学・医学教育学
指導教員：谷万喜子	領域：鍼灸臨床学

成績の評価

担当教員毎に異なる。事前にポータルサイトにアップした課題研究の概要に準じる。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

履修前面談時に開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習が必要である。

テキスト

担当教員より指示がある。

参考資料

担当教員より指示がある。

オフィスアワー

水曜日 : ~ : (坂口)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp (坂口)

講義コード	4A244011
講義名	総合演習Ⅱ
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-5003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

山崎 寿也・坂口 俊二・小河 健一・近藤 哲哉・王 財源・川本 正純・谷 万喜子・増田 研一・山本 博司・伊藤 俊治・木村 研一・戸村 多郎・内田 靖之・中尾 哲也・中吉 隆之・鍋田 理恵・山口 由美子・池藤 仁美・北川 洋志・寺岡 祐助・百合 邦子・東内 あすか・榎田 高士

目的

臨床実習などの実学と並行した位置付けで、東西両医学全般について網羅的に学修する。また、当該科目は「キャリア教育科目」に指定されている。

到達目標

講義と模擬試験を中心に、専門基礎・専門科目の知識を定着させ、国家試験に繋げる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス/関係法規（山崎/坂口）
2. 東医臨床論（北川）
3. 病理学（伊藤）
4. 病理学（伊藤）
5. 確認テスト（山崎）
6. 解剖学（戸村）
7. 解剖学（戸村）
8. 生理学（内田）
9. 生理学（内田）
10. 確認テスト（山崎）
11. 衛生・公衆衛生学（榎田）
12. 衛生・公衆衛生学（榎田）
13. リハビリテーション医学（中尾）
14. リハビリテーション医学（中尾）
15. 確認テスト（山崎）
16. 医学各論（小河）
17. 医学各論（小河）
18. 医学各論（小河）
19. 医学各論（小河）
20. 医学各論（小河）
21. 国試対策模試Ⅲ前半（山崎）
22. 国試対策模試Ⅲ後半（山崎）
23. 国試対策模試Ⅳ前半（山崎）
24. 国試対策模試Ⅳ後半（山崎）

- 25.国試対策模試Ⅴ前半 (山崎)
- 26.国試対策模試Ⅴ後半 (山崎)
- 27.国試対策模試Ⅵ前半 (山崎)
- 28.国試対策模試Ⅵ後半 (山崎)
- 29.国試対策模試Ⅶ前半 (山崎)
- 30.国試対策模試Ⅶ後半 (山崎)

尚、別途5月頃前期中間試験、10月頃後期中間試験を実施する。

詳細な日程は、別途提示する。

振替や別日開講等あるので注意すること。

成績の評価

筆記試験にて成績を決定する。ガイダンス時に別途詳細な資料を配布する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験（中間試験含む）終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

各科目における教科書

配付資料

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F 311研究室 yamazaki@kansai.ac.jp (山崎)

講義コード	4A391011
講義名	鍼灸治療所実習Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2607
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし
教員	坂口 俊二	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

王 財源 [はり師・きゅう師] ・坂口 俊二 [はり師・きゅう師] ・谷 万喜子 [はり師・きゅう師] ・山本 博司 [はり師・きゅう師] ・中吉 隆之 [はり師・きゅう師] ・山崎 寿也 [はり師・きゅう師] ・池藤 仁美 [はり師・きゅう師] ・北川 洋志 [はり師・きゅう師] ・百合 邦子 [はり師・きゅう師] ・東内 あすか [はり師・きゅう師]

目的

鍼灸治療の適応患者を対象に、鍼灸師の教員による指導下で、これまでの学年で学修してきた内容を駆使して臨床実習を行う。

到達目標

患者との良好な関係を築き、授業計画に挙げた4つの内容を修得する。

授業計画表

授業計画

1. 東洋医学的診察の実習
望・聞・問・切診（脈診、腹診、舌診、切経）、理学的検査法等を実習する。
2. 鍼灸治療の補助
医療面接、血圧測定、抜鍼、鍼通電刺激装置のオン・オフと刺激量の調整等、治療の補助を行うとともに、症状に対する処方経穴構成理由、各経穴への刺激方法の違い、それに伴う症状の評価（直後効果・遠隔効果）等を実習する。
3. 診療録の作成
診療録作成は、毎回教員の指示を受けて『平成³¹年度 鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱの手引き』に準じて行うとともに、その内容を各自の実習記録ノートにも転記する。
4. 治療録に基づいた症例のレポート作成
新患もしくは複数回にわたり同一患者を担当し、その間に行われた治療（使用経穴や刺激法など）と、患者の症状変化などについて、臨床レポートを作成する。

成績の評価

定期試験(60%)と臨床レポート(40%)で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

適宜紹介する。

3年次に配布した「鍼灸診察法Ⅰ・Ⅱ」の資料を参照すること。

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

月曜午前	診療・研究棟4F 412研究室	・ sakaguti@kansai.ac.jp	(坂口)
火曜午前	診療・研究棟3F 302研究室	・ kawamoto@kansai.ac.jp	(川本)
火曜午後	診療・研究棟3F 307研究室	・ tani@kansai.ac.jp	(谷)
水曜午後	診療・研究棟4F 413研究室	・ cai@kansai.ac.jp	(王)

講義コード	4A392011
講義名	鍼灸治療所実習Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2608
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし
教員	黒岩 共一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川本 正純 [はり師・きゅう師] ・王 財源 [はり師・きゅう師] ・黒岩 共一 [はり師・きゅう師] ・谷 万喜子 [はり師・きゅう師] ・山本 博司 [はり師・きゅう師] ・中吉 隆之 [はり師・きゅう師] ・山崎 寿也 [はり師・きゅう師] ・池藤 仁美 [はり師・きゅう師] ・北川 洋志 [はり師・きゅう師] ・百合 邦子 [はり師・きゅう師] ・東内 あすか [はり師・きゅう師] ・畑村 育次 [医師]

目的

鍼灸師の教員による指導下で、外来患者を対象とした鍼灸臨床を体験し、疼痛や不安等を持つ患者心理にどのように対応していくのか、また前期に比してより深い認識のもとで、鍼灸治療を理解するように実習する。

到達目標

教員の治療のシミュレーションとともに、自分自身で治療法が想定できる事を目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 東洋医学的診察の実習
望・聞・問・切診（脈診、腹診、舌診、切経）、理学的検査法等を実習する。
2. 鍼灸治療の補助
医療面接、血圧測定、抜鍼、鍼通電刺激装置のオン・オフと刺激量の調整等、治療の補助を行うとともに、症状に対する処方経穴構成理由、各経穴への刺激方法の違い、それに伴う症状の推移（直後効果・遠隔効果）それに伴う症状の評価（直後効果・遠隔効果）等を実習する。
3. 刺鍼・施灸の実習
教員の指示の下、患者に対して指定された経穴に鍼灸治療、低周波鍼通電療法等を実習する。
4. 診療録の作成
診療録作成は、毎回教員の指示を受けて『平成³¹年度 鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱの手引き』に準じて行うとともに、その内容を各自の実習記録ノートにも転記する。
5. 附属診療所における見修
附属診療所における医師の診療行為を見修し、鍼灸治療の適応と禁忌を判断する能力を高めるとともに、医の倫理についても学ぶ。

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

月曜午後 診療・研究棟3F 306研究室・kuroiwa@kansai.ac.jp（黒岩）
火曜午前 診療・研究棟3F 302研究室・kawamoto@kansai.ac.jp（川本）
火曜午後 診療・研究棟3F 307研究室・tani@kansai.ac.jp（谷）
水曜午後 診療・研究棟4F 413研究室・cai@kansai.ac.jp（王）

講義コード	4A441011
講義名	鍼灸臨床実習Ⅲ A (内科系)
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

担当教員 (実務経験を有する資格)

山崎 寿也 (はり師・きゅう師)

目的

本科目は、広範囲の内科疾患（消化器系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌および代謝疾患、泌尿器・生殖器系疾患、アレルギー疾患、感覚器系疾患など）の中で、特に鍼灸の対象とされる症状を中心に講義し、鍼灸施術の実習を行う。

到達目標

鍼灸臨床現場で、即応できる知識と技能を修得することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 腹痛
2. 便秘・下痢
3. 悪心・嘔吐
4. 食欲不振・肥満
5. 冷え・のぼせ
6. 高血圧・低血圧
7. 咳嗽・喘息
8. 鼻閉・鼻汁
9. 眩暈
10. 耳鳴り・難聴
11. 眼精疲労
12. 排尿障害・ED (勃起不全) ・小児疾患
13. 発熱・歯痛
14. 発疹・脱毛症
15. 実技試験

成績の評価

筆記試験50%、実技試験30%、小テストなど10%、実習への取り組み度10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

この授業では1~3年生で学修したこと全てが関係してくる。特に、経穴学講義・実習、東洋医学総論、東洋医学各論Ⅰ・Ⅱの内容は十分に復習しておくこと。

履修上の注意

鍼灸国家試験において重要な分野です。意欲的に取り組むこと。

テキスト

1. 「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）（購入済み）
2. 「東洋医学概論」（医道の日本社）（購入済み）
3. 「経絡経穴概論」（医道の日本社）（購入済み）

参考資料

1. 「臨床医学各論」（医歯薬出版社）
2. 「臨床医学総論」（医歯薬出版社）
3. 「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ」（文光堂）
4. 「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ」（文光堂）
5. 「鍼灸学（臨床編）」（東洋学術出版社）

オフィスアワー

木曜日 12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室 yamazaki@kansai.as.jp

講義コード	4A441012
講義名	鍼灸臨床実習Ⅲ B（内科系）
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

百合 邦子〔はり師・きゅう師〕

目的

本科目は、広範囲の内科疾患（消化器系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌および代謝疾患、泌尿器・生殖器系疾患、アレルギー疾患、感覚器系疾患など）の中で、特に鍼灸の対象とされる症状を中心に講義し、鍼灸施術の実習を行う。

（本科目は必修での鍼灸実習最終科目です）

到達目標

鍼灸臨床現場で、即応できる知識と技能を修得することを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 腹痛
2. 便秘・下痢
3. 悪心・嘔吐
4. 食欲不振・肥満
5. 冷え・のぼせ
6. 高血圧・低血圧
7. 咳嗽・喘息
8. 鼻閉・鼻汁
9. 眩暈
10. 耳鳴り・難聴
11. 眼精疲労
12. 排尿障害・ED（勃起不全）・小児疾患
13. 発熱・歯痛
14. 発疹・脱毛症
15. 実技試験

成績の評価

筆記試験50%、実技試験30%、小テストなど10%、実習への取り組み度10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

この授業では1～3年生で学修したこと全てが関係してくる。特に、経穴学講義・実習、東洋医学

総論、東洋医学各論Ⅰ・Ⅱの内容は十分に復習しておくこと。

履修上の注意

鍼灸国家試験において重要な分野です。意欲的に取り組むこと。

テキスト

1. 「東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（医道の日本社）（購入済み）
2. 「東洋医学概論」（医道の日本社）（購入済み）
3. 「経絡経穴概論」（医道の日本社）（購入済み）

参考資料

1. 「臨床医学各論」（医歯薬出版社）
2. 「臨床医学総論」（医歯薬出版社）
3. 「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ」（文光堂）
4. 「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ」（文光堂）
5. 「鍼灸学（臨床編）」（東洋学術出版社）

オフィスアワー

月曜日12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室yuri@kansai.as.jp

講義コード	4A442011
講義名	伝統鍼灸学Ⅱ（経絡治療）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 古野 忠光	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

古野 忠光[はり師・きゅう師]

目的

病苦に悩める患者に伝統鍼灸（経絡治療）を！
あらゆる疾患に対応できる臨床実力を身に付ける！

私たちの生命維持機構は十二経絡を通路として巡っている気血津液に依存するものである。病は精気の虚からと言われるようにこの気血津液の過不足によって病は発症する。

あらゆる疾患（内科系・婦人科系・小児科系・アレルギー疾患・スポーツ障害等々）は、十二経絡を巡る気血津液の異常（虚・実）として、経絡・経穴・脈状に現れるのである。この異常（虚・実）に対して補法・瀉法を施すことによって病は治癒へと導かれるのである。

本講は、伝統医学としての古典を再検討した経絡理論を実践し、脈診による経絡治療の優秀性を肌と感じると共に、さらに補助的な奇経治療・子午治療・その他の標治法などを加え、治癒に導くための実力を養い、臨床に即した実技指導を行う。

到達目標

経絡治療の真髄は、十二経絡を巡る気血津液の過不足（虚・実）を補瀉調整することによって、自然治癒力を高め生命力の強化を図り必然的に治癒という結果をもたらすことにある。

痛くないはり治療、熱くない灸療法、鍬鍼による治療法を修得する。

さらに脈診を身に付ける！ 治療家としての実力を育成する！臨床度胸をつけるなどによって、患者からの信頼を得て社会に役立つ鍼灸人としての治療家を目指す。

授業計画表

授業計画

1. 経絡治療とは・脈診の概要
スポーツ障害と経絡治療（講義）
2. 補法・瀉法の基本刺鍼（補瀉論）
経絡治療の実際（花粉症と経絡治療）
3. 臓象論・五臓の生理・病理（講義）
4. 実践経絡治療（腰痛・膝関節疾患）実習
5. 病証論・十二経の病症（講義）
6. 脈診・腹診 実習（捻挫・打撲）
7. 病因と病証（講義）
8. 実践経絡治療 実習（アトピー性皮膚炎と経絡治療）
9. 五蔵の色体表（講義）
10. 実践経絡治療（五十肩と経絡治療）実習
11. 奇経治療・子午治療（講義）
12. 実践奇経治療（スポーツ障害）実習

- 13. スポーツ障害と経絡治療 実習
- 14. 実践奇経治療・子午治療 実習
- 15. 実践経絡治療まとめ 実習

成績の評価

定期試験90%・小テスト10%で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

事前に配布するプリント等にて、必ず予習の上出席すること。
その他、『難経』六十九難、六十八難。十二経絡の五行穴・五要穴等を復習して臨むこと。

テキスト

事前にプリントにて配布

参考資料

- 「わかりやすい経絡治療」(東洋はり医センター)
- 「よくわかる奇経治療」(たにくち書店)
- 「難経の研究」(医道の日本社)

講義コード	4A443011
講義名	スポーツ鍼灸特論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-4106
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

内田 靖之〔はり師・きゅう師〕
坂口 俊二〔はり師・きゅう師〕

目的

本科目では、鍼灸師としてスポーツ競技者の体調や障害、外傷などにどのように関わっていけるかについて学修する。

到達目標

スポーツ競技者にかかわるメディカルスタッフとして、鍼灸師のidentityの確立を目指す。

授業計画表

授業計画

1. スポーツと東洋医学「スポーツ鍼灸とは？」（坂口）
2. 鍼灸師、トレーナーとしてどのように現場へ貢献するのか（内田）
3. スポーツ競技者の体調把握と不調への対処法1（M-test）（坂口）
4. スポーツ競技者の体調把握と不調への対処法2（奇経治療）（坂口）
5. スポーツ競技者の体調把握と不調への対処法3（澤田流太極療法）（坂口）
6. 運動器系疾患・症状に対する経筋治療の活用（坂口）
7. 運動器系疾患・症状に対する低周波鍼通電療法（坂口）
8. スポーツ鍼灸[仮題]（外部講師）
9. スポーツ分野における鍼治療のエビデンス（円皮鍼に着目して）（坂口）
10. スポーツ障害に対する評価と鍼灸治療1（腰部）（内田）
11. スポーツ障害に対する評価と鍼灸治療2（肩関節）（内田）
12. スポーツ障害に対する評価と鍼灸治療3（膝関節）（内田）
13. スポーツ障害に対する評価と鍼灸治療4（足部）（内田）
14. スポーツ外傷に対する鍼灸治療1（捻挫）（内田）
15. スポーツ外傷に対する鍼灸治療2（筋損傷〔打撲・肉離れ〕）（内田）

成績の評価

定期試験80%、授業への取り組み度やレポート課題20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマについて2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。特に、講義内容を復習するとともに関連科目の学修内容を統合し、鍼灸師としてスポーツ競技者に携わるイメージを構築していくこと。

テキスト

テキストは特に指定しないが、参考の資料は以下の通りとする。

参考資料

- 「M-Test－経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ」 (医学書院)
- 「誰でもできる経筋治療」 (医道の日本社)
- 「鍼通電療法テクニック－運動器系疾患へのアプローチ－」 (医道の日本社)
- 「スポーツリハビリテーション-最新の理論と実践-」 (西村書店)
- 「解剖・動作・エコーで導くFasciaリリースの基本と臨床」 (文光堂)

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00 (内田)

水曜日 12:00-13:00 (坂口)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp (内田)

診療・研究棟4階412研究室、sakaguti@kansai.ac.jp (坂口)

講義コード	4A444011
講義名	レディース鍼灸
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

百合 邦子 [はり師・きゅう師]
鍋田 理恵 [はり師・きゅう師]
坂口 俊二 [はり師・きゅう師]

目的

性差医療は現代求められている医療形態である。また女性のライフサイクルには月経を中心とした各ステージがあり、そのステージごとに女性特有の様々なトラブルや疾患・症状がみられる。本科目では、これら症状に対し、鍼灸治療が果たせる役割について学修する。

到達目標

各項目を概括的に捉え、性差治療への活用ができる鍼灸師となることを目標とする。
女性は自身のこと、男性は自身の周囲にいる女性をより深く理解のできる医療人（鍼灸師）となることを目指す。

授業計画表

授業計画

- 1.女性のライフサイクルと東洋医学
- 2.女性とメンタルヘルス
- 3.月経①（百合）
- 4.月経②（百合）
- 5.月経③（百合）
- 6.月経④（百合）
- 7.不妊症①（鍋田）
- 8.不妊症②（鍋田）
- 9.妊娠期のマイナートラブル①（鍋田）
- 10.妊娠期のマイナートラブル②（鍋田）
- 11.更年期障害（鍋田）
- 12.冷え症①（坂口）
- 13.冷え症②（坂口）
- 14.レディース鍼灸の展望①（外部講師）
- 15.レディース鍼灸の展望②（外部講師）

成績の評価

定期試験（全て記述式）で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

即ち、各項目についての配布資料を整理して自分なりの資料集を作る、また、興味を持った内容について成書や検索エンジンなどで深く掘り下げるなどである。

履修上の注意

女性疾患は鍼灸国家試験において出題頻度の高い分野である。自分の将来性も含め意欲的に取り組むこと。

テキスト

各項目毎に随時資料を配布する。

参考資料

1. 「レディース鍼灸ーライフサイクルにおける女性のヘルスケア」 （医歯薬出版）
2. 「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ」 （文光堂）
3. 「冷え外来」 （医歯薬出版）

オフィスアワー

月曜日 12：10～13：00（百合）

火曜日～金曜日 12：30～13：00（鍋田）

水曜日 12：00～13：00（坂口）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階教員室 yuri@kansai.ac.jp（百合）

診療・研究棟4階416研究室 2c@kansai.ac.jp（鍋田）

診療・研究棟4階412研究室 sakaguti@kansai.ac.jp（坂口）

講義コード	4A445011
講義名	美容鍼灸
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2407
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王 財源	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

王 財源〔はり師・きゅう師〕

目的

『黄帝内経』には容貌、形体、精神に対する「美」への考え方があり、そこには中国伝統医学に基づいた美容学が存在する。

『黄帝内経』によれば「血気が充足すれば、眉毛は麗しく長く、眉の中に毫毛が生える。血が多くて気が少なければ、眉毛は枯れて憔悴し、顔に細やかな皺が多く現れる。血が少なく気が多ければ、顔面部の筋肉は豊満で、気血が調和していれば、顔面がきれいになる」と、気血が蔵府の機能を介して、身体上における経絡、経穴に及ぼす影響について述べている。また、体質や心理的要因の改善には、美しさを保つ上での秘訣があるという。そこで、本講義は中国伝統医学の考え方を基本姿勢とする鍼灸美容学の理論と実践に取り組み、実際の臨床に還元することを目的とする。

到達目標

講義は中医学を基礎とした鍼灸美容学を学び、実践へと結びつけたい。実技ではそれらの刺鍼効果を実際に体験し、一般的な毫鍼法を用いることはもちろんのこと、本学ならではの特色として、古代九鍼中の員針、員利鍼、鍤鍼、鑱鍼、鉞鍼、鋒鍼の6種類の鍼がもつ特殊な形状を利用した、「聚」「散」「合」「離」の4タイプの手技による気血の誘導で、「内剛」（内の逞しさ）より「外柔」（そとはしなやかに）を促すための方法を習得し、伝統医学を用いた美容鍼灸指導者の育成を目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 導入教育 動画でまなぶ・・・「美容鍼灸の実践」
2. 起源と発展、古代の宮廷内部の女性の「美」意識
3. 審美にみる伝統医学の活用法
4. 鍼灸美容と心身の相関関係を明らかにする
5. 『素問』にみえる「美」に影響を与える因子と仕組み
6. 『老子』哲学にみる養生思想
7. 六淫と皮膚の関係性について
8. 『靈枢』に載る気血の盛衰と容貌美の関係について
9. 七情と表情筋との関係性について
10. 『靈枢』経脈編に説かれる容貌美
11. 十二皮部を活用した美容
12. 「美」にも根付く「気」の思想
13. シワ鍼、梅花鍼、審美九鍼(刮痧鍼法)
14. 灸法:湧泉燻蒸法 大椎燻蒸法 脈気温陽法

15. 養神と養形に対する処方穴

成績の評価

定期試験80%・実技テスト10%、レポート10%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

1. 授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行なうこと。
2. 短期間での学修となるため「臓腑学」理論を中心に、参考文献で基礎理論を学修し、中国伝統医学に対する予備知識を高めておくことと聴講の助けとなる。

履修上の注意

1. 実技の指導が入るため、鍼灸実習の用具は各自で準備すること。
2. 聴講生について実技用の鍼の配布がないため各自で持参すること。

テキスト

「鍼灸美容学」(静風社)

参考資料

- 「美容と東洋医学」(静風社)
- 「中医学に基づく実践美容鍼灸」(医歯薬出版)
- 「美容皮膚科学」(南山堂)
- 「入門・目で臨床中医診断学」(医歯薬出版)

オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

面談時には事前にメール連絡すること。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 413号室

E-mail:cai@kansai.ac.jp

講義コード	4A446011
講義名	現代鍼灸学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-4107
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

坂口 俊二〔はり師・きゅう師〕 木村 研一〔はり師・きゅう師〕

目的

鍼灸治療には、現代医学的と東洋医学的な観点から治療を行う方法がある。現代鍼灸学では主要な疾患・症状に対し、現代医学的な病態把握に基づく鍼灸治療の組み立てを学修する。

到達目標

鍼灸治療で対象となりやすい疾患・症状について、現代医学的な病態把握と基本的な鍼灸治療法を修得する。

授業計画表

授業計画

1. 現代鍼灸学とEBM（木村）
2. 研究デザインとエビデンス（木村）
3. 高血圧症に対する鍼灸治療（木村）
4. 頭痛に対する鍼灸治療（木村）
5. 月経困難症に対する鍼灸治療（木村）
6. 腰痛症に対する鍼灸治療（木村）
7. 末梢循環障害に対する鍼灸治療①（坂口）
8. 末梢循環障害に対する鍼灸治療②（坂口）
9. 関節リウマチに対する鍼灸治療（坂口）
10. 肩関節周囲炎に対する鍼灸治療（坂口）
11. 変形性膝関節症に対する鍼灸治療（坂口）
12. 維持透析の合併症に対する鍼灸治療（坂口）
13. 慢性閉塞性肺疾患に対する鍼灸治療（坂口）
14. パーキンソン病に対する鍼灸治療①（外部講師）
15. パーキンソン病に対する鍼灸治療②（外部講師）

成績の評価

レポートで評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。特に毎回の講義内容の整理・復習を行い、その知識を「鍼灸治療所実習」などの実学に結び付けること。

参考資料

- 「図解鍼灸療法技術ガイドⅡ」（文光堂）
「鍼灸臨床最新科学」（医歯薬出版）

オフィスアワー
火曜日 12:00～13:00 (木村)
水曜日 12:00～13:00 (坂口)
研究室・授業用E-mail
診療・研究棟4階414研究室・k.kimura@kansai.ac.jp (木村)
診療・研究棟4階412研究室・sakaguti@kansai.ac.jp (坂口)

講義コード	4A447011
講義名	トリガーポイント鍼療法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2610
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

黒岩 共一〔はり師・きゅう師〕

目的

頸・肩凝りに関係し、頭位変化で生じるめまいと頭位、顎位の左右非対称を生じる頭痛へのトリガーポイントの係わりを理解し、そうしためまい、頭痛、歯痛のTP治療の基本を身に付ける。

到達目標

頸・肩凝り、頭痛、めまいに係わるトリガーポイントを見つけて鍼を中てられる様になる。

頭・頸部は特に刺鍼リスクが高いエリアであり、刺鍼行為の間、生じうるリスクとその回避策が常に、リスク発生時には瞬時に想起できる様になる。

授業計画表

授業計画

1. 頸部痛、頸肩こり感の責任TP(講義)
2. 適応となるめまい、頭痛の見極め方と関連TP(講義)
3. 上記4症状のTP刺鍼1：僧帽筋、棘上筋
4. 上記症状のTP刺鍼2：肩甲挙筋、後斜角筋
5. 同TP刺鍼3：中斜角筋、腸肋筋(停止部)
6. 同TP刺鍼4：頭半棘筋、頭・頸最長筋
7. 同TP刺鍼5：頭板状筋、肩甲挙筋2
8. 同TP刺鍼6：頸半棘筋、後頭筋、頸椎骨膜
9. 同TP刺鍼7：舌骨下筋群、側頭筋、前斜角筋
10. 同TP刺鍼8：胸鎖乳突筋、帽上腱膜、前頭筋
11. 同TPマッサージ1：肩部、肩甲間部
12. 同TPマッサージ2：頭・頸部
13. めまいのTP治療(まとめ)
14. 頭痛、歯痛のTP治療(まとめ)
15. 実技テスト

成績の評価

実技試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後に実技評価を個人研究室（診療・研究棟³⁰⁶研究室）にて開示する。

自己学習

授業1コマにつき120分の予習、60分の復習を行うこと。具体的には、①実習で取り上げる筋、筋と同エリアにある諸構造の解剖学、②めまいの病態生理、めまいに関わる³感覚とそれら感覚の統合中

枢or脳内ネットワーク、及び頸性めまいについて、③筋緊張性頭痛と偏頭痛について調べ、開講までにノートを作成する。

テキスト

配布資料

「プロメテウス解剖学アトラス 総論/運動器系 第3版」(医学書院)

参考資料

「刺鍼事故 処置と予防」(三和書籍)

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

オフィスアワー

水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階306研究室/ kuroiwa@kansai.ac.jp

講義コード	4A448011
講義名	トリガーポイント鍼療法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2611
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田坂 和子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

田坂 和子〔はり師・きゅう師〕

目的

運動器の疼痛治療におけるトリガーポイント療法の役割と治療法について学び、実習する。本講義では腰痛の治療に特化し、それに関わる筋の触察、マッサージ、鍼治療の方法を学ぶ。

到達目標

運動器由来の腰痛に対するトリガーポイント療法について理解を深め、筋を正確に触察できること、マッサージ、鍼をあてる技術を習得する。
卒業後、臨床の現場ですぐに使える技術の習得を目指す。

授業計画表

授業計画

- 1.トリガーポイントと運動器由来の腰痛について（講義）
- 2.腰痛に関わる筋の体表投影図描写実習
- 3.腰方形筋、腸肋筋のマッサージ
- 4.多裂筋のマッサージ
- 5.ツールを用いてのマッサージ
- 6.多裂筋、大腰筋の鍼治療
- 7.腸肋筋、腰方形筋の鍼治療
- 8.臀部の体表投影図描写実習
- 9.大殿筋、中殿筋のマッサージ
- 10.大腰筋のマッサージ
- 11.ツールを用いてのマッサージ
- 12.臀部の鍼治療①
- 13.臀部の鍼治療②
- 14.各自課題
- 15.実技試験

成績の評価

試験80%（筆記・実技） 実技習熟度20%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験（筆記）の解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行なうこと。特に実習範囲の解剖学、運動学、基本的な生理学の予習および復習が必要である。

履修上の注意

実習では注意をしなければ危険な箇所もある。実習中の指示は必ず聞くこと。

テキスト

配布プリント

参考資料

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣)

「プロメテウス 解剖学アトラス」(医学書院)

講義コード	4A449011
講義名	スポーツ鍼灸治療Ⅱ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2613
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 英世	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

松浦 英世〔はり師・きゅう師〕

目的

スポーツ鍼灸治療Ⅰではスポーツ選手に多いスポーツ傷害の治療法を部位に分けて行った。スポーツ鍼灸治療Ⅱでは、スポーツ選手にも遭遇する内科疾患および頭部や顔面部、さらに筋緊張による頸肩の症状に合わせて一つひとつ部位別に鍼灸治療や手技療法を講義していく。

また、スポーツ障害に対して現在活躍されている経験豊富な講師による特別講義を予定している。

到達目標

スポーツ選手にも多い不定愁訴となる内科疾患の治療が行える。このことは、一般成人にとっても同様の治療法が行えるため、その鍼灸治療ができることを到達目標にします。

授業計画表

授業計画

1. スポーツ選手の胃症状
2. 便秘と下痢症状
3. 肝胆膵疾患
4. 特別講義
5. 有酸素運動に対する呼吸器疾患および肋骨痛
6. スポーツ選手にも起こる月経異常および泌尿器疾患
7. 特別講義
8. 試合前に多い頭痛症状
9. 顔面部疾患と歯痛
10. 特別講義
11. 遠征時に多い不眠症
12. 特別講義
13. 耳鼻疾患
14. 特別講義
15. スポーツ選手にも太極療法

成績の評価

定期試験（筆記）にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当について、体表解剖はもちろん、内臓、感覚器などの解剖学を、経絡・経穴では、特に要穴（募穴、背部兪穴含む）を中心に予習を復習を行なうこと。

テキスト

毎回の講義でプリント配布『医道の日本：私の臨床経穴取穴術1～12回』を配布します。
「スポーツマッサージ」（KATA実技指導員著）

参考資料

「経外穴」（関西運動器研究会著）

オフィスアワー

水曜日12時30分～13時

研究室・授業用E-mail

管理棟2階非常勤講師控室

講義コード	4A450011
講義名	臓腑経脈治療Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2614
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 辻岡 広行	指定なし

目的

歌賦を題材にし、鍼灸臨床の場面に対応するために、分析→弁証→選穴→施術を行う。
尚、特に表証について行う。

到達目標

臨床現場で遭遇した際、滞りなく施術が行える様にする。

授業計画表

授業計画

1. 頭風
2. 頭痛
3. 偏頭痛
4. 頭部疾患の実技
5. 三叉神経痛
6. 顔面神経麻痺
7. 顔面部疾患の実技
8. 脇肋疼痛
9. 脇肋部疾患の実技
10. 腰痛・坐骨神経痛①
11. 腰痛・坐骨神経痛②
12. 腰部疾患の実技
13. 脚腿諸病
14. 脚腿諸病の実技
15. まとめ

成績の評価

筆記試験80%・実技点10%・授業への取り組み度10%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。東洋医学概論や臨床についての疑問点を書き出して、自分で調べた後、質問を行う。

履修上の注意

授業中の携帯電話の使用は禁止する。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

「東洋医学概論」 (医道の日本社)

「経絡経穴概論」 (医道の日本社)

講義コード	4A451011
講義名	臓腑経脈治療Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2615
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

川本 正純 [はり師・きゅう師]

目的

蔵象並びに経絡・経別に基づいた臨床応用例の学習を目的とした講義・実習を行う。

到達目標

各疾患に対しての配穴の弁証ができ、施術方法を導き出せる臨床応用力を培うことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 正経の経間関係と奇経の運用方法
2. 経別と交会穴について
3. 実習
4. 咳嗽・哮喘と鼻疾患の配穴弁証①
5. 咳嗽・哮喘と鼻疾患の配穴弁証②
6. 実習
7. 翻胃・九種心痛の配穴弁証①
8. 翻胃・九種心痛の配穴弁証②
9. 実習
10. 泄瀉・消渴の配穴弁証①
11. 泄瀉・消渴の配穴弁証②
12. 実習
13. 崩漏・帯下の配穴弁証①
14. 実習
15. まとめ

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

随時プリント配布する。

参考資料

「漢方用語大辞典」 (燎原)

オフィスアワー

木曜日 12.30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3F 302研究室・kawamoto@kansai.ac.jp

講義コード	4A452011
講義名	中国手技療法
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2616
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王 財源	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

王 財源〔はり師・きゅう師〕

目的

中国伝統医療文化を基軸に発展を遂げた中国伝統医学には、歴代医家らの珠玉の経験による医学知識が集積されている。そのなかでも鍼灸学には、鍼灸治療を用いた患者の疾病治療と予防があり、症状の数だけ異なった治療技術が存在している。本講義は、伝統医術に基づいた中国鍼灸の手技学を学び、中国伝統医学(中医学)に基づいた、鍼灸の手技学について習熟することを目的とする。

到達目標

- 1.中国鍼を用いた施術方法を実践できること。
- 2.八卦頭鍼法を習得する。
- 3.中医弁証法（八綱、蔵府、経絡）を用いた中国鍼灸術の応用能力を高めること。

授業計画表

授業計画

- 1.中国鍼法について
- 2.中医古典文献より読み解く古代の鍼手技
- 3.中医学における「気」の身体観と臟腑学
- 4.中医診断による中国鍼の使用方法
- 5.中医飛鍼法と梅花鍼
- 6.中国鍼の手技と得気の誘発方法
- 7.中国古代の刺鍼手技
- 8.中医八卦頭針法について
- 9.中医八卦頭針法について
- 10.中医八卦頭針法について
- 11.中医棒灸術の実践方法
- 12.中医顔面鍼治法(鼻鍼・面鍼)
- 13.中医吸角術の実践方法・火罐置針法、走罐法など
- 14.中医弁証学の正しい使用方法
- 15.実技テスト

成績の評価

実技試験90%、レポート10%にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

- 1.手技学が本講義の目的のため、自主的なトレーニングを積んでおくと、手技学理解の補助となる。
- 2.臓腑学説などで身体の中医学的生理を基準に、中国伝統医学に対する予備知識を高め、実践に即した中医診断による中国鍼治療を習得する。
- 3.授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

授業内容については中国鍼の応用が必須となるため、各自で実習用具と白衣を持参すること。

テキスト

適宜、資料を配付して紹介する。

参考資料

- 「針灸学」手技編（東洋学術出版）
- 「特殊鍼灸テキスト」（医歯薬出版）
- 「わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング」第2版(医歯薬出版)
- 「わかりやすい臨床中医診断学」第2版(医歯薬出版)
- 「わかりやすい臨床中医臓腑学」第3版(医歯薬出版)

オフィスアワー

木曜日 12:30～14:00

面談時には事前にメールにて連絡すること。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 413研究室 cai@kansai.ac.jp

講義コード	4A453011
講義名	アスレティックトレーナー総合演習
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-2711
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

内田 靖之〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 中尾 哲也〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 吉田 隆紀〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕
 寺岡 祐助〔日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー〕

目的

アスレティックトレーナーや鍼灸師は身体に関する最新の知識を持っていなくてはならない。本演習では最新の知識をどのようにして得るか、また得た知識をどのように現場へ実践していくか、基盤を作ることで知識を社会に応用できるアスレティックトレーナーや鍼灸師になることを目的とする。またその課程で（財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験の合格を目指す。これらの内容をゼミ形式で行う。

到達目標

様々な医学的文献を検索し、読み理解することが出来るようになる。また、アスレティックトレーナー試験を合格することを目的とする。

授業計画表

授業計画

1. AT試験対策①
2. AT試験対策②
3. AT試験対策③
4. AT試験対策④
5. 神経筋からみる運動プログラミング
6. 下部体幹筋群収縮様式と姿勢、運動制御
7. 歩行にもとめるもの
8. 姿勢とアライメントの評価と傷害予防
9. 重心や重心位置を利用して、SSCや加速的運動連鎖を導く
10. オーバーヘッド競技者に対するコンディショニングの実際
11. 予防プログラムの考え方
12. 膝の傷害に対するリハビリテーションの実際－半月板縫合術を中心に
13. 足部スポーツ障害の研究紹介
14. 筋収縮と疲労のメカニズム
15. 疲労回復、コンディショニングについて－文献紹介と現場での活用

※講義タイトルは順番が前後する可能性があります。

成績の評価

AT理論・実技模擬試験50%、授業への取り組み度やレポート課題50%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマについて0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。具体的には、アスレティックトレーナー専門科目テキスト、紹介された論文は必ず読むこと。

履修上の注意

(財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験合格を目指す人、科学的思考、研究などに興味のある人は履修して下さい。

テキスト

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨」(日本スポーツ協会)

参考資料

適宜指示する。

オフィスアワー

火曜日 9:00-12:00 (内田)

月曜日 16:30-18:00、火曜日 15:00-17:00 (吉田)

月～金曜日 12:00-13:00 (中尾)

水曜日 16:30-18:00、金曜日 13:00-14:30 (寺岡)

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階311研究室、uchida@kansai.ac.jp (内田)

4号館7階D719研究室、nakao@kansai.ac.jp (中尾)

4号館7階D719研究室、t.yoshida@kansai.ac.jp (吉田)

診療・研究棟3階教員室、teraoka@kansai.ac.jp (寺岡)